

2010年大学入試の出願動向

「不況」なのに(だからこそ?)国公立・私立ともに志願者は増加

代々木ゼミナール入試情報センター

本部長 坂口幸世

2010年のセンター試験は問題が難化したため、多くの科目で平均点が下がりました。特に数学Ⅰ・Aや物理Ⅰ、化学Ⅰで大きく平均点ダウンしています。センター試験が難化した年は、国公立大学への出願は減少するという年が多いのですが、今回志願者は増加しました。また私立大学の志願者数も、まだ途中集計ですが増加しています。「不況だから、学費の高い私立よりは国公立へ」というような単純な予測通りに受験生が動いたとは言えないようです。2010年の国公立、私立の出願の特徴を紹介します。

センター試験 主な科目の平均点

| 教科・科目名 | 満点 | 09年 | 10年 | 差 |
|-----------|-----|--------|--------|--------|
| 国語 | 200 | 115.46 | 107.62 | -7.84 |
| 地理 | 100 | 62.70 | 59.62 | -3.08 |
| 歴史 | 100 | 57.94 | 61.51 | +3.57 |
| 公民 | 100 | 60.19 | 58.76 | -1.43 |
| 倫理 | 100 | 71.51 | 68.66 | -2.85 |
| 政治経済 | 100 | 69.31 | 59.16 | -10.15 |
| 数学 | 100 | 63.96 | 48.96 | -15.00 |
| 数学ⅡB | 100 | 50.86 | 57.12 | +6.26 |
| 理科 | 100 | 63.55 | 54.01 | -9.54 |
| 物理Ⅰ | 100 | 69.54 | 53.79 | -15.75 |
| 化学Ⅰ | 100 | 55.85 | 69.70 | +13.85 |
| 生物Ⅰ | 100 | 51.85 | 66.76 | +14.91 |
| 地学Ⅰ | 100 | 51.85 | 66.76 | +14.91 |
| 外国語 | 200 | 115.02 | 118.14 | +3.12 |
| 英語筆記リスニング | 50 | 24.03 | 29.39 | +5.36 |

なお、以下には出願状況の概要のデータをいくつか紹介しますが、各大学の学部・学科ごとの詳細な志願者数や倍率については、代々木ゼミナールのホームページの「入試情報」<http://www.yozemi.ac.jp/nyushi/nyushi.html> 中の「2010年入試データファイル」をご覧ください。

国公立大学の志願者は7年ぶりの増加

2月3日で締め切られた2010年の国公立大学一般選抜の志願者数は下表のようになりました。国立、公立、前期、後期、中期とすべての区分で志願者数は前年を上回りました。特に増加の大きいのが公立

大学の前期日程です。国立前期が約2,600人の増加であるのに対し、公立前期はその倍以上の増加数となって

2010年国公立大学(一般選抜)の出願状況と倍率等

| 区分 | 日程 | 2009年入試 | | | 2010年入試 | | | 志願者増減 | |
|----|----|---------|---------|------|---------|---------|------|---------|-------|
| | | 募集人員 | 志願者数 | 志願倍率 | 募集人員 | 志願 | 志願倍率 | 増減数 | 指数 |
| 国立 | 前期 | 64,091 | 199,044 | 3.1 | 64,130 | 201,658 | 3.1 | +2,614 | 101.3 |
| | 後期 | 16,716 | 154,399 | 9.2 | 16,578 | 158,751 | 9.6 | +4,352 | 102.8 |
| | 合計 | 80,807 | 353,443 | 4.4 | 80,708 | 360,409 | 4.5 | +6,966 | 102.0 |
| 公立 | 前期 | 13,773 | 54,193 | 3.9 | 14,021 | 59,629 | 4.3 | +5,436 | 110.0 |
| | 後期 | 3,416 | 42,025 | 12.3 | 3,391 | 43,219 | 12.7 | +1,194 | 102.8 |
| | 中期 | 1,915 | 25,357 | 13.2 | 1,901 | 26,016 | 13.7 | +659 | 102.6 |
| | 合計 | 19,104 | 121,575 | 6.4 | 19,313 | 128,864 | 6.7 | +7,289 | 106.0 |
| 合計 | 前期 | 77,864 | 253,237 | 3.3 | 78,151 | 261,287 | 3.3 | +8,050 | 103.2 |
| | 後期 | 20,132 | 196,424 | 9.8 | 19,969 | 201,970 | 10.1 | +5,546 | 102.8 |
| | 中期 | 1,915 | 25,357 | 13.2 | 1,901 | 26,016 | 13.7 | +659 | 102.6 |
| | 合計 | 99,911 | 475,018 | 4.8 | 100,021 | 489,273 | 4.9 | +14,255 | 103.0 |

* 国際教養大学、新潟県立大学、新見公立大学を含まない。欠員補充2次募集を含まない。

* 東京芸術大学美術学部と愛知県立大学美術学部の2009年分は、2010年の日程に算入した。

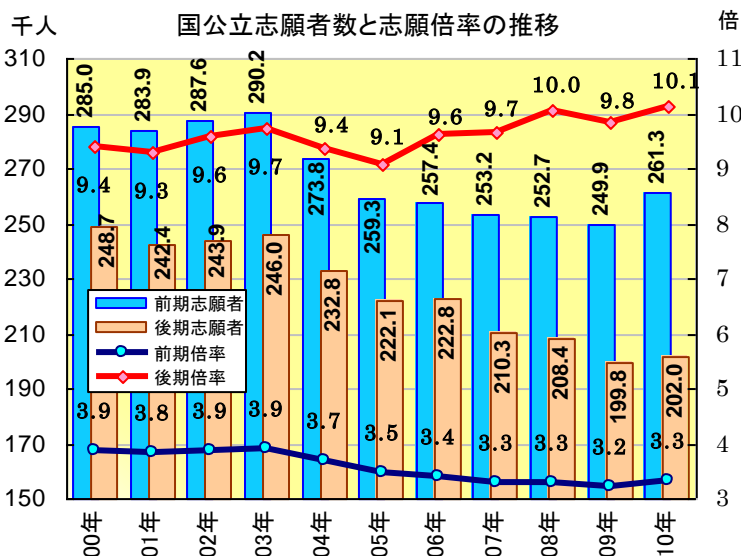
います。

その結果、志願倍率も上昇しました。前期日程は募集人員が若干増加しているため前年と同じ3.3倍ですが、後期日程は募集人員が減らされているため10倍を超える倍率となりました。(後期日程は、前期で合格した人は欠席しますので受験率は50%程度ですから、実際の倍率=実質倍率=はもっと低下します)

最近の国公立志願者数の推移を見ると(右図)、2004年から

志願者が減少し続けてきました。これは少子化・受験人口の減という要因よりも、センター試験の科目数がそれ以前の5教科6科目から5(6)教科7科目に増えたからです。大半の国立大学が7科目に揃ったのが2004年入試であったというのは先月号(「センター試験小史」)でふれた通りです。

それからほぼ一貫して減少してきた志願者数が7年ぶりに増加したのは、今回はそれだけ国公立志向が強かったと言えるでしょう。最近では後期日程の廃止・縮小がされたこともあって後期日程の志願者数は減ってきたのですが今回は増加しました。志願倍率10.1倍というのは前期・後期制(分離分割制度)始まって以来の高倍率となっています。

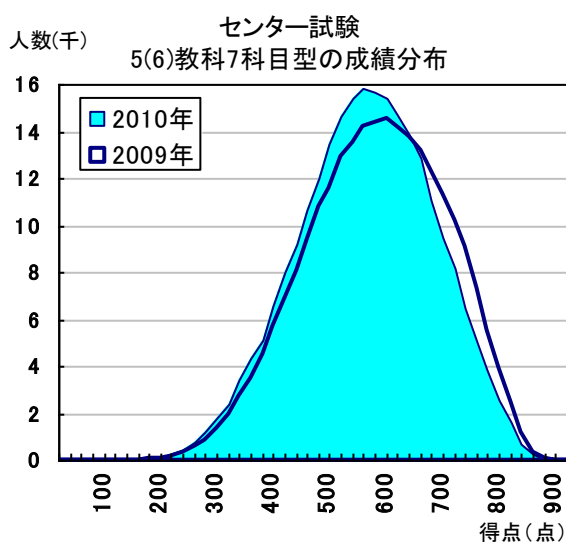


センター平均点ダウンでも出願増の理由

それにしても冒頭に言いましたように、センター試験が難化したのに国公立大学の志願者が増加したのは「国公立志向」だけなのでしょうか。

右の図はセンター試験の5(6)教科7科目の成績(900点満点)の分布です(代ゼミの「センターリサーチ」集計による)。2009年に比較して今回のセンター得点が低下しているのがわかります。しかしよく見ると、センター得点500点台、600点台のところでは昨年より多い人数が固まっています。そこで、500点以上得点できた人数を調べると、代ゼミの集計では昨年は186,000人、今回は181,000人とほとんど変わりありません。

この「センター500点」というのは、国公立



大学にギリギリ合格できる点数です。つまり、全体の平均点は下がったものの、国公立大学になんとか入れるかもしれないと期待できる人の数はほとんど変わっていません、ということです。

いわば「国公立大学全体のボーダー」である500点台にたくさんの受験生が固まっているわけで、この人たちが「なんとか入れそうな大学」へと集まったようです。

上の「大学タイプ別」の志願者数の集計では、「難関国立」(旧帝大と東京工業大学、一橋大学の9大学)を目指す受験生は若干の減、次の難易度グループである「準難関国立」と「大都市圏国公立」を目指す人たちは増加しています。ゆるやかな安全志向があったと言えそうですが、更に次の難易度グループである一般的な国立大学では志願者はほとんど横バイと言ってよく、それよりも

更に易しい大学が多い「一般公立」というグループが大きく志願者を伸ばしています。

これはすでに述べました「なんとか入れそうな」得点の人たちが「なんとか入れそうな大学」を探した結果であると思われます。前期日程で募集

する公立大学70校のうち志願者増加は2/3近い45校でした(減少は23校、同数が1校、新規加入が1校)。

たとえば右上の表の北九州市立大学は昨年の実質倍率が2.6倍と大都市部にある公立大学としては低めの競争率でした。首都大学東京は最近の実質倍率が3.5倍→3.3倍→3.2倍と低下が続いてきたところでした(なお、首都大学東京は「大学タイプ別」の表では「大都市圏国公立」に分類しています)。

もちろん公立でも減少したところがありますが、昨年の倍率が高いところを中心です。なお、後で述べますように今年は「資格」に関する学科の人气が高く、公立大学にはこれらの学科を中心に構成されている大学も多く、これも公立人気の要因であったとも言えます。

旧帝大などの「難関国立」は志願者減でしたが、その中でも大学により増減があります。東京大学が減少して東京工業大学、一橋大学、京都大学が増加していることから、最難関が敬遠されたと

大学タイプ別の志願者増減(前期のみ)

| 区分 | 2009年 | | 2010年 | | 志願者増減 | |
|---------|--------|-----|--------|-----|--------|-------|
| | 志願者数 | 倍率 | 志願者数 | 倍率 | 増減数 | 指数 |
| 難関国立 | 52,536 | 3.0 | 52,442 | 3.0 | -94 | 99.8 |
| 準難関国立 | 31,387 | 2.7 | 32,109 | 2.8 | +722 | 102.3 |
| 大都市圏国公立 | 46,872 | 3.8 | 48,291 | 3.9 | +1,419 | 103.0 |
| 一般国立 | 80,724 | 3.1 | 81,522 | 3.2 | +798 | 101.0 |
| 一般公立 | 41,718 | 3.9 | 46,898 | 4.3 | +5,180 | 112.4 |

志願者増加数の多い大学(前期のみ)
国立大学

| 大学 | 09年 志願者 | 10年 志願者 | 増加 数 | 指数 |
|------|------------|------------|---------|-------|
| 大分 | 2,279 | 2,845 | +566 | 124.8 |
| 広島 | 3,949 | 4,469 | +520 | 113.2 |
| 鳥取 | 2,300 | 2,800 | +500 | 121.7 |
| 京都 | 7,991 | 8,320 | +329 | 104.1 |
| 東京学芸 | 2,176 | 2,495 | +319 | 114.7 |
| 山形 | 3,023 | 3,331 | +308 | 110.2 |
| 福岡教育 | 1,133 | 1,413 | +280 | 124.7 |
| 信州 | 3,370 | 3,629 | +259 | 107.7 |
| 大阪教育 | 1,649 | 1,880 | +231 | 114.0 |
| 東京海洋 | 1,012 | 1,233 | +221 | 121.8 |
| 秋田 | 1,628 | 1,838 | +210 | 112.9 |
| 愛知教育 | 1,316 | 1,525 | +209 | 115.9 |
| 横浜国立 | 2,580 | 2,783 | +203 | 107.9 |
| 千葉 | 5,997 | 6,198 | +201 | 103.4 |
| 富山 | 3,443 | 3,640 | +197 | 105.7 |

公立大学

| 大学 | 09年 志願者 | 10年 志願者 | 増加 数 | 指数 |
|----------|------------|------------|---------|-------|
| 北九州市立 | 2,665 | 3,463 | +798 | 129.9 |
| 首都大東京 | 5,404 | 5,861 | +457 | 108.5 |
| 富山県立 | 480 | 927 | +447 | 193.1 |
| 長崎県立 | 1,085 | 1,465 | +380 | 135.0 |
| 静岡県立 | 773 | 1,020 | +247 | 132.0 |
| 高崎経済 | 2,045 | 2,269 | +224 | 111.0 |
| 公立ほこだて未来 | 454 | 659 | +205 | 145.2 |
| 山梨県立 | 547 | 751 | +204 | 137.3 |
| 神戸市外国語 | 960 | 1,129 | +169 | 117.6 |
| 岩手県立 | 852 | 1,019 | +167 | 119.6 |
| 熊本県立 | 666 | 833 | +167 | 125.1 |
| 名寄市立 | 213 | 379 | +166 | 177.9 |
| 和歌山県立医科 | 333 | 496 | +163 | 148.9 |
| 福井県立 | 982 | 1,128 | +146 | 114.9 |
| 会津 | 686 | 827 | +141 | 120.6 |

言えそうです。

下の志願者数の推移のグラフを見ると、国立大学の法人化(2004年)の頃から東大と京大が志願者を増やし続けてきましたが、2009年あたりがまたひとつの転換点になっているようにも見えます。2009年、2010年は①センター試験の問題が難化した、②「不況」といわれる経済情勢である、③医学部医学科の定員増が行われた、という3点セットが東大志望を弱めているのかもしれませんが。また、全国から東大をめざす動きが2009年から変化が起き、西日本(特に関西圏)から東大へという動きが弱まっているのかもしれませんが。

「難関国立」の志願者増減(前期のみ)

| 大学 | 2009年 | | 2010年 | | 志願者増減 | |
|------|-------|-----|-------|-----|-------|-------|
| | 志願者数 | 倍率 | 志願者数 | 倍率 | 増減数 | 指数 |
| 北海道 | 5,506 | 2.9 | 5,428 | 2.8 | -78 | 98.6 |
| 東北 | 5,326 | 2.9 | 5,341 | 2.9 | +15 | 100.3 |
| 東京 | 9,877 | 3.3 | 9,439 | 3.2 | -438 | 95.6 |
| 東京工業 | 3,262 | 3.8 | 3,286 | 3.8 | +24 | 100.7 |
| 一橋 | 3,146 | 3.7 | 3,332 | 4.0 | +186 | 105.9 |
| 名古屋 | 5,153 | 3.0 | 4,960 | 2.9 | -193 | 96.3 |
| 京都 | 7,991 | 2.8 | 8,320 | 2.9 | +329 | 104.1 |
| 大阪 | 7,201 | 2.8 | 7,265 | 2.8 | +64 | 100.9 |
| 九州 | 5,074 | 2.5 | 5,071 | 2.5 | -3 | 99.9 |

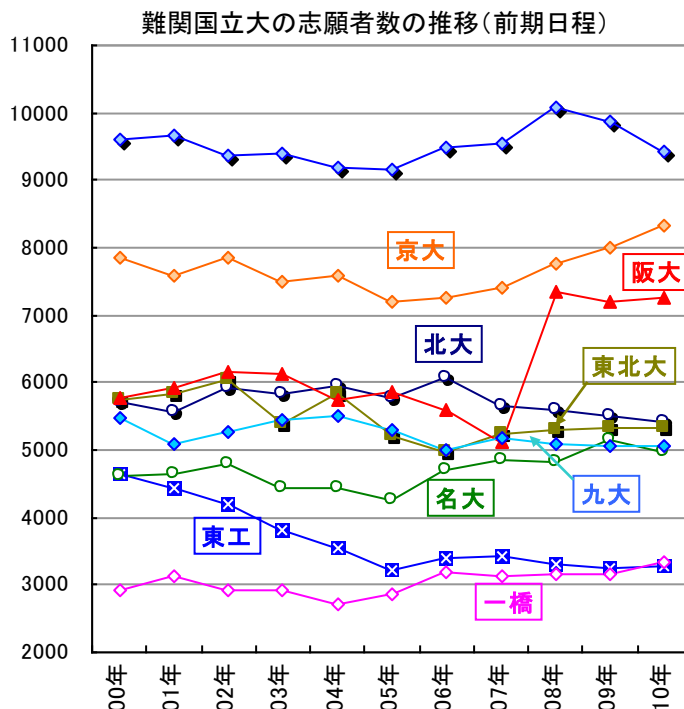
東大・文1志望と「事業仕分け」

ところで、今回の東大志願者減少の中心は文科一類(主として法学部へ進学する科類)でした。一橋大や京大の法学部が増加していることがそれを裏付けるようです。そしてもちろんそうした受験生の動きもあったでしょうが、東大・文1の志願者減少は378人、京大・一橋大の法学部の増加は合計で155人、他に増加した阪大などを加えても231人にしかありません。

東大・文1の減少のもうひとつの要因として考えられるのは第1段階選抜回避という動きですが、センターリサーチ直後の文1の第1段階選抜ラインは、文2、文3よりも低く予想されています。出願結果は文2は63人(5%)の減少、文3は28人(2%)の増加でした。文1だけがなぜ23%という大幅な減少になったのかは説明し切れません。

東大法学部は設立当初から官僚養成の最高機関として現在に至っています。最近の脱官僚・政治主導の動きが文1の志願者減に関係しているとは考えられないでしょうか。

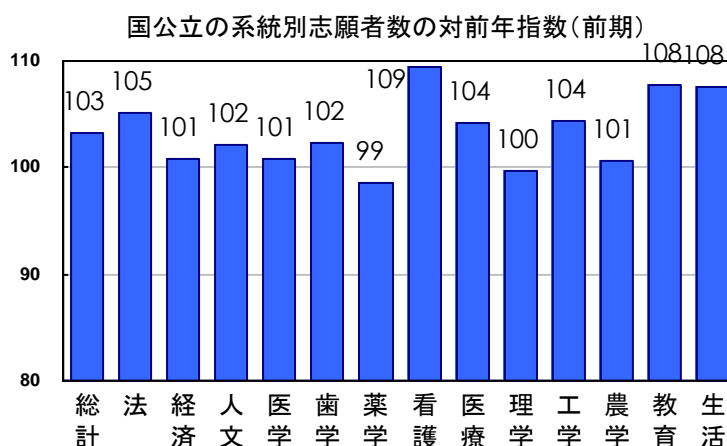
実は、私立大学では早稲田大学の法学部、政治経済学部、慶應義塾大学の法学部、経済学部がいずれもが今回大きく志願者を減らしています。看板学部・人気学部がこぞって志願者減となったことは、東



大・文1の志願者減と符合します。3大学とも国家公務員 I 種合格者が多い大学、つまり霞ヶ関への門にもっとも近い大学であること考え合わせれば、今回の志願者減少は偶然でもなく、また個々の事情によるというだけでもない、つまりいま進められつつある「平成維新」の改革と関係があるのかもしれない。

それでもやはり学部・学科選択は「不況型」傾向

次に学部・学科の系統別の志願者数の集計をみましょう。今回の特徴は事前に予想されたように「資格」にむすびつく学科の人気の高まっています。特に看護、教育(教員養成)は大きく志願者を伸ばしました。3ページの「志願者増加数の多い大学」の表の国立大学の欄には教員養成系単科大学が4つも入っているのもこのためです。「医学」(医学部医



学科)は若干の増加ですが、定員増のため志願倍率は5.0倍→4.8倍へと低下しています。歯学部は昨年の「大崩れ」(志願者が激減した)をうけて今回は志願者は若干の増です。昨年易化した反動と見られます。ですから逆に、歯学部のうちで昨年の実質倍率が1番と2番に高かった徳島大学、長崎大学の歯学部は3割以上の減少となりました。

文系は法学系が増加していますが、特に増加したのは政策・行政系の学科で、法律学科や法学部(学部一括募集)は横バイです。人文系のうち、外国語や国際に関する学部・学科が志願者を増やしています。

私大も志願者は増加・・・国公立とほぼ同率アップ

さて、国公立大学が志願者を増やしたのは「不況」という要因が大きいと考えられますが、では学費の高い私立大学は減少しているのか

| 区分 | 2009年入試 | | | 2010年入試 | | | 志願者増減 | |
|--------|---------|-----------|------|---------|-----------|------|---------|-------|
| | 募集人員 | 志願者数 | 志願倍率 | 募集人員 | 志願 | 志願倍率 | 増減数 | 指数 |
| 一般入試 | 144,039 | 1,581,424 | 11.0 | 142,325 | 1,601,862 | 11.3 | +20,438 | 101.3 |
| 1回目募集 | 139,940 | 1,543,220 | 11.0 | 138,586 | 1,563,265 | 11.3 | +20,045 | 101.3 |
| 2回目以降 | 4,099 | 38,204 | 9.3 | 3,739 | 38,597 | 10.3 | +393 | 101.0 |
| センター利用 | 27,721 | 648,361 | 23.4 | 28,545 | 693,264 | 24.3 | +44,903 | 106.9 |
| 事前締切 | 19,069 | 508,316 | 26.7 | 19,227 | 548,314 | 28.5 | +39,998 | 107.9 |
| 事後1回目 | 8,135 | 134,313 | 16.5 | 8,680 | 136,886 | 15.8 | +2,573 | 101.9 |
| 2回目以降 | 517 | 5,732 | 11.1 | 638 | 8,064 | 12.6 | +2,332 | 140.7 |
| 合計 | 171,760 | 2,229,785 | 13.0 | 170,870 | 2,295,126 | 13.4 | +65,341 | 102.9 |

という、こちらも志願者は増加しています。前ページの表は2月17日までに判明した私立大学入試の志願者数の集計です。集計大学数は224大学と全体の4割ほどですが、志願者数で言えば84%の開票率になります。

この時点での志願者数は対前年で2.9%の増加で、これは国公立の増加幅(3.0%)とほとんど同じです。校数では59%の大学で志願者増加となっています。ただし、現在判明している大学は受験生に人気のある大規模有名大学が中心ですから、今後より多くの大学の状況が判明すれば、志願者増加校の割合は低下するかもしれません。

最近の傾向として私大入試はセンター利用入試の志願者が増えていますが、今回もセンター利用は大きく増やしています。特に事前締切り(センター試験の実施直前に出願を締め切るもの)はセンター試験の問題の難易度に左右されないため、大幅増となっています。校数では65%の大学のセンター利用が増加となりました。

私大の学部・学科選びも「不況型」

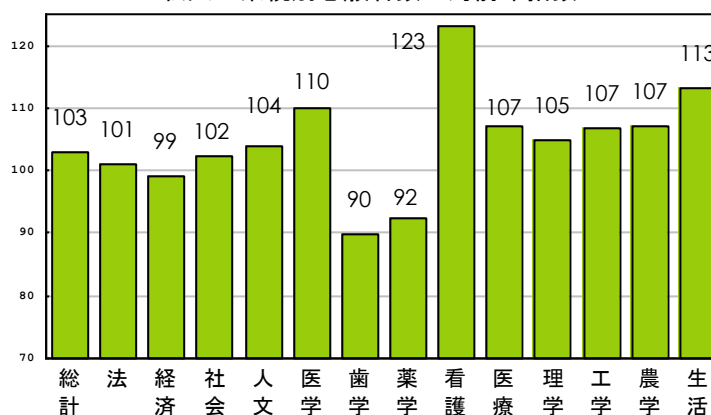
学部・学科の系統別の志願者数では、国公立の動向と似ていて、やはり「資格」の学部・学科が人気となっています。看護の志望者は大幅に増加していますし、またそれ以外の医療資格の学科も志願者が増えています。医学部も増加ですが、歯学部は昨年に続いて大きく志願者を減らしています。国公立では昨年の反動で歯学部志願者は増加したのですが、私立では減少が止まりません。歯学部平均の志願倍率は4.1倍で、これは全系統中でもっとも低い倍率です。国公立歯学部には人気回復があり、私立歯学部には回復がないのは、学費の違い、開業・研究といった進路の違いによるものでしょう。薬学部も減少が続いています。

文系はほぼ横バイですが、経済系は若干の減少です。細かい分類では経済学科より経営学科の方が志願者を増やしていますが、これはごくわずかの差です。

人文系の増加は「教育」や「心理」が牽引力となっています。国公立同様に、「外国語」や「国際」の学科も志願者が伸びています。大学生の就職状況の悪化から文学や文化の学科は避けられる・・・、かというともうありません。日本関係・英米関係とも1%未満の減少にとどまっています。歴史・地理の学科は5%増加しています。

文系よりは不況に強いと見られる理工系学科は昨年に続いて志願者が増加しました。学科分類ではほぼすべての学科系統で増加になっていて(理学部の化学系は減)、減少の続いていた建築

私大の系統別志願者数の対前年指数



関係も増加しました。農学部の人気も昨年からの継続です。ただし獣医学科は1割の減少です。これは国公立の獣医も同じ傾向です。

生活科学系も増加しています。特に人気の分野は「子ども」の学科(幼稚園教員、保育士、小学校教員などの免許取得を目的とする大学が多い)で、次に食物栄養系学科で、ここでも「資格」取得への動きが強く見られます。

上のグラフにはありませんが、美術系学部は志願者減少が顕著です。現段階集計では11%の

志願者減少、大手の美大は軒並み志願者を減らしています。国立でも東京芸術大学美術学部が336人(8%)の志願者減となっています。ここにも「不況」の影響が見られます。

志願者増減数の多い大学
増加の大学

| 大学 | 09年 志願者 | 10年 志願者 | 増加数 | 指数 |
|------|------------|------------|--------|-------|
| 明治 | 105,570 | 115,081 | +9,511 | 109.0 |
| 法政 | 84,931 | 93,062 | +8,131 | 109.6 |
| 明星 | 4,513 | 8,989 | +4,476 | 199.2 |
| 日本 | 83,689 | 88,018 | +4,329 | 105.2 |
| 専修 | 28,276 | 32,066 | +3,790 | 113.4 |
| 近畿 | 59,232 | 62,816 | +3,584 | 106.1 |
| 東京経済 | 9,791 | 13,085 | +3,294 | 133.6 |
| 大東文化 | 12,823 | 15,924 | +3,101 | 124.2 |
| 佛教 | 6,946 | 9,609 | +2,663 | 138.3 |
| 国士舘 | 8,007 | 10,656 | +2,649 | 133.1 |
| 文教 | 12,081 | 14,598 | +2,517 | 120.8 |
| 国学院 | 16,682 | 19,172 | +2,490 | 114.9 |
| 獨協 | 15,104 | 17,489 | +2,385 | 115.8 |
| 駒澤 | 28,146 | 30,517 | +2,371 | 108.4 |
| 東京電機 | 12,385 | 14,667 | +2,282 | 118.4 |

後期募集等除く。2月18日現在。

減少の大学

| 大学 | 09年 志願者 | 10年 志願者 | 減少数 | 指数 |
|-------|------------|------------|--------|------|
| 立命館 | 76,230 | 69,561 | -6,669 | 91.3 |
| 早稲田 | 121,166 | 115,515 | -5,651 | 95.3 |
| 中央 | 84,541 | 81,198 | -3,343 | 96.0 |
| 東京女子 | 11,049 | 9,166 | -1,883 | 83.0 |
| 学習院 | 15,458 | 13,765 | -1,693 | 89.0 |
| 慶応義塾 | 49,889 | 48,260 | -1,629 | 96.7 |
| 成城 | 18,598 | 17,047 | -1,551 | 91.7 |
| 同志社女子 | 9,833 | 8,325 | -1,508 | 84.7 |
| 武蔵野美術 | 9,626 | 8,139 | -1,487 | 84.6 |
| 関西学院 | 50,936 | 49,655 | -1,281 | 97.5 |
| 創価 | 13,458 | 12,252 | -1,206 | 91.0 |
| 青山学院 | 54,522 | 53,337 | -1,185 | 97.8 |
| 関西 | 79,293 | 78,166 | -1,127 | 98.6 |
| 中京 | 17,750 | 16,695 | -1,055 | 94.1 |
| 東京薬科 | 4,122 | 3,099 | -1,023 | 75.2 |

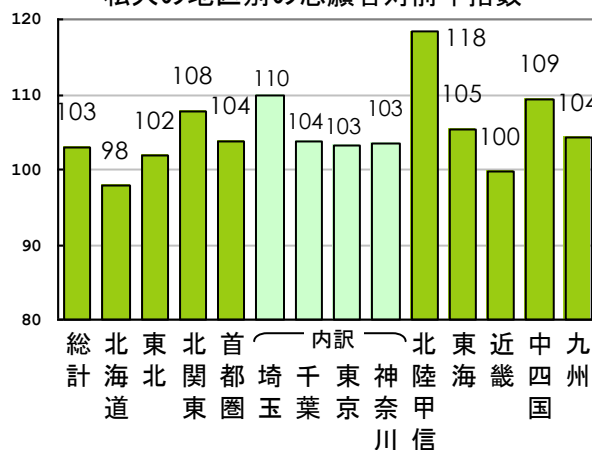
好調の首都圏だが、トップ難関は減

私大の地区別(所在地別)集計では、北海道を除く全ての地域で志願者増となっています。ただし近畿は「100」という指数ですが、厳密に言えば0.2%の減少です。北陸甲信や中四国は判明大学数がまだ少ないため大きな数値になっています。

一般的に「不況だから地元の大学へ」と考えられるのですが、しかし実際は、全国区大学が多い首都圏でも志願者増となりました。では「地元大学へ」という動きはなかったのかというと、その動きの結果と見られる現象がいくつか見られます。

まず首都圏大学の大学別の増減状況です。全体としては志願者は増加しているのですが、最難関といわれる、早稲田大学と慶応義塾大学はいずれも4%ほどの減少となりました。この2大学は実は昨年も数パーセントの減少でした。「最難関」であるのは、全国から広く受験生が集まる大学だ

私大の地区別の志願者対前年指数



からで、その2大学が、率としてはわずかですが揃って2年連続減といふところに、地方からの受験生の減少があったことを推測させます。これは国公立、特に東大志望の変化としてさきほど述べたことと共通します。

これに対し今回増加した大学は、もちろん全国的な知名度をもった大学ではありませんが、受験生の集まり方は東日本が中心で

す。西日本から東京へという流れが弱まってもさほどの影響は受けにくい大学です。MARCHといわれるグループでは、明治大学、法政大学、立教大学が増、中央大学、青山学院大学が減でした。これは昨年の増減の組み合わせの裏返しで、各々昨年の反動が出たといえます。例えば明治大学では昨年倍率が大きく下がった学部・学科・方式が今回は大幅な志願者増となっているわけです。

首位の座が入れ替わる、安全志向の時代

しかしそうした個別の事情だけでは説明しきれない大きな変化も見られます。上に掲載した「志願者数番付」の表をご覧ください。志願者が減少したとは言え、早稲田大学が最多の志願者数となっています。しかし次の明治大学との差は434人です。明大はセンター後期がまだ残っていて、これには昨年の場合600人を超える志願がありましたので、最終確定数では早大の数を超える可能性が大きいのです。志願者数1位は1990年代は日本大学の時代で、1999年以降は早大が1位を続けてきました。

1999年は早大が初めてセンター試験に参加した年です。それ以後入試、学部学科、教育システム等の改革が続くわけですが。一方明大は2002年に4学科を新設した頃から改革が進み2007年には「全学部統一入試」(地方会場も設置)を開始しました。こうした改革のムーブメントの時間差が首位交代(になりそう)につながったと見ることもできます。

さらに受験生側の動向の変化も関係していると見られます。受験生の地域移動が低下しているかもしれないことはすでに述べましたが、もうひとつ「難関回避」とか「安全確実志向」とでもいう動向が強まっていると思われれます。次ページの「大学タイプ別の志願者数」では、いわゆる「中堅」という

私立大学志願者数番付

2月18日現在

| 順位 | 大学 | 2009年 | | | 2010年 | | | 志願者増減 | | 備考 |
|----|------|-------|---------|------|-------|---------|------|--------|-------|-----------------|
| | | 募集人員 | 志願者数 | 志願倍率 | 募集人員 | 志願者数 | 志願倍率 | 増減数 | 指数 | |
| 1 | 早稲田 | 5,660 | 121,166 | 21.4 | 5,630 | 115,515 | 20.5 | -5,651 | 95.3 | |
| 2 | 明治 | 4,578 | 105,570 | 23.1 | 4,583 | 115,081 | 25.1 | +9,511 | 109.0 | センター後期を除く |
| 3 | 法政 | 4,285 | 84,931 | 19.8 | 4,285 | 93,062 | 21.7 | +8,131 | 109.6 | センター後期を除く |
| 4 | 日本 | 6,271 | 83,689 | 13.3 | 6,167 | 88,018 | 14.3 | +4,329 | 105.2 | 2/16締切りまで |
| 5 | 中央 | 3,612 | 84,541 | 23.4 | 3,619 | 81,198 | 22.4 | -3,343 | 96.0 | センター後期を除く |
| 6 | 関西 | 5,139 | 79,293 | 15.4 | 5,461 | 78,166 | 14.3 | -1,127 | 98.6 | 後期・センター後期を除く |
| 7 | 立教 | 2,869 | 70,941 | 24.7 | 2,905 | 72,966 | 25.1 | +2,025 | 102.9 | |
| 8 | 立命館 | | 76,230 | | 3,693 | 69,561 | 18.8 | -6,669 | 91.3 | 後期・センター後期を除く |
| 9 | 東洋 | 5,050 | 63,761 | 12.6 | 4,954 | 65,476 | 13.2 | +1,715 | 102.7 | 2/19締切までの2/22現在 |
| 10 | 近畿 | 3,222 | 59,232 | 18.4 | 3,333 | 62,816 | 18.8 | +3,584 | 106.1 | 後期・センター後期を除く |
| 11 | 青山学院 | 2,536 | 54,522 | 21.5 | 2,580 | 53,337 | 20.7 | -1,185 | 97.8 | センター後期を除く |
| 12 | 関西学院 | 2,919 | 50,936 | 17.4 | 3,055 | 49,655 | 16.3 | -1,281 | 97.5 | センター3月を除く |
| 13 | 東京理科 | 2,288 | 49,491 | 21.6 | 2,288 | 48,781 | 21.3 | -710 | 98.6 | 2部を除く |
| 14 | 慶應義塾 | 4,096 | 49,889 | 12.2 | 4,098 | 48,260 | 11.8 | -1,629 | 96.7 | |
| 15 | 同志社 | 3,172 | 45,459 | 14.3 | 3,202 | 44,612 | 13.9 | -847 | 98.1 | センター2月締切り分を除く |
| 16 | 福岡 | 2,563 | 37,530 | 14.6 | 2,589 | 39,735 | 15.3 | +2,205 | 105.9 | 後期を除く |
| 17 | 龍谷 | 1,895 | 35,419 | 18.7 | 1,873 | 34,593 | 18.5 | -826 | 97.7 | C日程・センター後期を除く |
| 18 | 専修 | 2,003 | 28,276 | 14.1 | 2,198 | 32,066 | 14.6 | +3,790 | 113.4 | 後期・センター後期・2部を除く |
| 19 | 駒澤 | 2,915 | 28,146 | 9.7 | 2,842 | 30,517 | 10.7 | +2,371 | 108.4 | 3月・センター中後期を除く |
| 20 | 芝浦工業 | 1,174 | 26,194 | 22.3 | 1,188 | 28,455 | 24.0 | +2,261 | 108.6 | 後期を除く |
| 21 | 明治学院 | 1,630 | 26,391 | 16.2 | 1,643 | 27,771 | 16.9 | +1,380 | 105.2 | B日程・センター後期を除く |
| 22 | 東京農業 | 1,720 | 25,297 | 14.7 | 1,720 | 27,065 | 15.7 | +1,768 | 107.0 | 2期・センター後期を除く |
| 23 | 名城 | 2,037 | 27,106 | 13.3 | 2,022 | 26,385 | 13.0 | -721 | 97.3 | センター後期を除く |
| 24 | 京都産業 | 1,294 | 26,626 | 20.6 | 1,277 | 26,360 | 20.6 | -266 | 99.0 | 後期・センター後期を除く |
| 25 | 成蹊 | 981 | 24,473 | 24.9 | 1,043 | 25,205 | 24.2 | +732 | 103.0 | センター後期を除く |

私大が志願者を伸ばしていることがわかります。MARCHの5大学は3増2減でしたが、日東駒専の4大学はすべてが増、「その他中堅」(明治学院大学、成蹊大学、国学院大学、神奈川大学など)とした14大学は1校(成城大学)を除くすべてが増しました。もちろん個別にはそれぞれの理由があります。明学大は学科新設と入試日程の組み合わせと、成蹊大は昨年のセンター利用入試の

大学タイプ別の志願者数 後期等除く

| 区分 | | 09年 志願者 | 10年 志願者 | 増減数 | 指数 |
|-----|-------|------------|------------|---------|-------|
| 首都圏 | 早慶上智 | 195,284 | 188,306 | -6,978 | 96.4 |
| | MARCH | 400,505 | 415,644 | +15,139 | 103.8 |
| | 日東駒専 | 201,626 | 212,307 | +10,681 | 105.3 |
| | その他中堅 | 223,006 | 241,768 | +18,762 | 108.4 |
| | 女子大 | 59,094 | 60,184 | +1,090 | 101.8 |
| 関西圏 | 関関同立 | 251,918 | 241,994 | -9,924 | 96.1 |
| | 産近甲龍 | 143,881 | 145,589 | +1,708 | 101.2 |
| | その他中堅 | 61,173 | 64,462 | +3,289 | 105.4 |
| | 女子大 | 40,077 | 41,851 | +1,774 | 104.4 |

ボーダー(合格最低点)が低下したためとか(複数学科ある学部では昨年のボーダーが最も高い学科のみが今回志願者を減らし、他学科は大幅増になっている)、国学院大は渋谷の再開発完了による都心回帰とか、……。しかしほぼ同じようなレベルの大学がこぞって志願者を増加させているのは、個別の事情を超えた大きな受験動向の変化があることを想定した方が合理的でしょう。

関西私大の志願者増加戦略の限界

次に関西圏の私大です。上の「大学タイプ別の志願者数」で見ると限りは首都圏私大とほぼ同じ傾向、つまり「難関回避」あるいは「安全確実志向」が見られます。しかし首都圏と異なるのは、「関関同立」(難易度的には首都圏の早慶上智MARCHに相当します)の4大学がこぞって志願者を減らしていることと、次の「産近甲龍」は増加しているものの、実は増加したのは近畿大学だけで他の3大学は減少となっていることです。しかも「関関同立」のうち、同志社大学を除く3大学は学部新設があったのですが、それでも総計志願者は減少となっています。

これらの大学にほぼ共通しているのは、一般入試(センター試験を利用しない大学作成問題による入試)が大きく減少して、センター利用入試が増えているということです。実はこの傾向は首都圏大学にも多少ともあてはまることですが、関西圏大規模大学においてはその傾向が顕著であって、一般入試の志願者減少分をセンター利用の志願者増加分で相殺できないくらい一般入試の減少が大きかったということです。つまり関西地区の受験生は、一般入試を受けずに、センター利用入試で合格を確保しようとする動きが強かったようです。受験回数を増加させようとする様々な試みもそろそろ限界にきているのかもしれません。

近畿大学の状況が若干違っているのは、学内併願をしやすい変更をしたこと、全国的に高まっている理工系や農学系の学部を持っていることなどから一般入試の志願者が増えたことです。センター利用入試は昨年の高倍率学科を中心に敬遠され、またセンター試験実施後に出願を締め切る「センター中期」はセンター試験の平均点低下の影響を受けて理工学部中心に志願者は減少しました。

地方私大も「元気大学」は人気上昇

首都圏・関西圏以外の地区は北海道を除いて志願者が増加しています。もちろんすでに述べま

したように現段階ではまだ志願状況判明校数が少ないのですが、主要な大学(志願者数も多い)は分かっていますので、最終的な状況とさほどのズレはないでしょう。

各地区の主要大学(ローカルブランド大学)もほとんどが志願者増の状況です。地元に残ろうとする傾向が強まっていると見られます。愛知県の大学は現在判明している19大学のうち減少したのは5大学のみです。中京地区受験生が外よりは内へという志望になっていることが、今までこの地域から多くの志願者を集めていた関西地区大規模大学の志願者減少の一因となっているのかもしれない。

他地区の私大の志願者数 後期等除く

| 大学 | 09年 志願者 | 10年 志願者 | 増減 数 | 指数 |
|------|------------|------------|---------|-------|
| 北星学園 | 3,350 | 3,049 | -301 | 91.0 |
| 北海学園 | 6,975 | 6,860 | -115 | 98.4 |
| 東北学院 | 9,678 | 9,922 | +244 | 102.5 |
| 愛知 | 12,991 | 13,507 | +516 | 104.0 |
| 愛知学院 | 7,774 | 9,613 | +1,839 | 123.7 |
| 愛知淑徳 | 7,763 | 9,117 | +1,354 | 117.4 |
| 中京 | 17,750 | 16,695 | -1,055 | 94.1 |
| 中部 | 6,087 | 7,463 | +1,376 | 122.6 |
| 南山 | 21,258 | 21,908 | +650 | 103.1 |
| 名城 | 27,106 | 26,385 | -721 | 97.3 |
| 広島修道 | 7,443 | 7,737 | +294 | 104.0 |
| 松山 | 7,820 | 8,946 | +1,126 | 114.4 |
| 福岡 | 37,530 | 39,735 | +2,205 | 105.9 |
| 西南学院 | 18,748 | 18,712 | -36 | 99.8 |
| 久留米 | 6,326 | 6,850 | +524 | 108.3 |

ところで志願者の増加数の多い大学はすでに表で示しましたが、増加の「率」で見ると最も高い伸び率となっているのは名桜大学です。基地移転で話題になっている沖縄県名護市にあるこの大学は名護市と周辺自治体による第3セクター方式の私立大学で1994年に開学しました。しかし最近では定員が充足できないため、さまざまな改革が試みられてきましたが、この4月から公立大学となることになりました。公立移行は昨年に高知工科大学の例があり、入学志願者がそれまでの10倍集まったので話題になりました。今回の名桜大はそれほどではないのですが、それでもI期試験だけですでに昨年の3倍の志願者が集まっています。今回の入学者は、私立大学としての学費をいったん納入し、4月以降に公立大学としての学費との差額が返金されるそうです。この措置も昨年の高知工科大学と同じです。

公立大学に移行する大学がもうひとつあります。浜松市にある静岡文化芸術大学です。こちらは今までも多くの受験生を集めてきましたが、そのひとつの理由は設立当初(2000年)から授業料が公立大学並みに設定されてきたことです。従って今回公立大学となっても授業料の改定はないようですが、それでも「公立大学」ということが受験生にとっては大きな魅力になっているのか、この大学も対前年で748人(33%)の志願者増となっています。

これらのような特殊な事情がなくとも、地方の小規模私立大学でも志願者を増やしているところがあります。「地元密着型」大学とでも言いますか、地元の受験生や保護者のニーズに応えているから志願者が集まるのでしょう。具体的にはどこの大学かは、冒頭で述べました代々木ゼミナールのHPで探してください。そこに掲載されているということは、この段階で出願状況を公表しているということです。当たり前のことのようにですが、これは地方小規模私大の中では少数派です。つまり現段階で公表しているというそのこと自体が、とても意味があることなのです。

(丁)